

単元名 わり算

配当時間 10時間

単元の目標 (1) 等分除, 包含除の意味や, 除法の適用場面を理解し, 式を立て, 答えが九九にない除法の答えを求めることができる。
 (2) 除法の計算の仕方について, 乗法を基にして考えることができる。
 (3) 同じ数ずつに分ける計算のよさに気づき, 除法を用いて, 日常生活上の問題の処理に役立てようとする。

標準的な展開例

03040103_001

【準備等】数図ブロック, 紙テープ, 問題カード, お金の模型 (1円玉, 10円玉)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 数図ブロックを使って同じ数ずつ分ける操作を通して, 単元の学習課題をつかむ。[p. 19~p. 22]</p> <p>○挿絵の場面について話し合う。</p> <p>○単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★数図ブロックを使って, 1人分は何こになるかを調べよう。</p> <p>○数図ブロックを使って, 問題解決を行い, 解決の仕方を説明する。</p> <p>○わり算の式の表し方, 読み方を知る。</p> <p>・$12 \div 3 = 4$ ・12わる3は4</p> <p>○20個のクッキーを4人で等しく分ける問題に取り組む。</p> <p>2 等分除の問題に取り組む。[p. 23]</p> <p>○「みんなで考える問題」を読み, 式を立てる。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★数図ブロックを使わないで答えをみつけることを考えよう。</p> <p>○$24 \div 3$の答えの見付け方を考える。</p> <p>○36本の鉛筆を9人に等しく分ける問題に取り組む。</p> <p>○14cmのテープを2本に等しく分ける問題に取り組む。</p> <p>3 包含除の問題に取り組む。[p. 24・p. 25]</p> <p>○12個のあめを3個ずつに分けたときの人数を求める方法について考える。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★数図ブロックを使わないで答えをみつけることを考えよう。</p> <p>○$3 \times \square = 12$の\squareを求めることから, 除法で求めればよいことを知る。</p> <p>○20個のクッキーを1人に4個ずつ分ける問題に取り組む。</p> <p>○14cmのテープを1本2cmずつ切る問題に取り組む。</p> <p>4 除法の計算の仕方を考える。[p. 26]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★$15 \div 3$の計算のしかたをくらべよう。</p> <p>○2つの問題のちがいに注目しながら, 立式をする。</p> <p>○\squareを使ったかけ算の式 ($\square \times 3 = 6$, $3 \times \square = 6$) に直し, $15 \div 3$の計算の仕方を考える。</p> <p>○2つの問題がどちらもわり算で求められ, 九九を使って求められることをまとめる。</p>	<p>・挿絵を見て, いちごが同じ数ずつに分けられていないことに気付かせ, みんなで仲良く分けるために, 同数ずつ分けることを意識させる。</p> <p>・挿絵の場面を見て, いちごが同じ数ずつに分けられていないことに気付かせる。</p> <p>・数図ブロックを使って, 等しく分けるという意味を説明をする。</p> <p>・\divは, 「$-$」→上の「\cdot」→下の「\cdot」の順に書くことを確認する。</p> <p>・数図ブロックを使わずに答えを求めさせることをねらいとしているが, 児童の思考を助ける段階でブロックを用意し, 視覚的にとらえさせてもよい。</p> <p>・除法の意味や表し方について想起させる。</p> <p>・前時に数図ブロックを使って答えを求めたことを想起させる。</p> <p>・1人分の数の3人分が24個と考えると, $\square \times 3 = 24$という式を導く。$12 \div 3 = 4$は, $3 \times 4 = 12$であることも参考にさせる。</p> <p>・除数の段の九九で答えを見付けることに気付かせる。</p> <p>・テープを実際に切り, 2つに分けて考えさせる。</p> <p>【評】等分除の問題を考える活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・数図ブロックを用意し, 教科書付録の皿に分けて考えさせる。</p> <p>・数図ブロックで配る様子を表した時, 同じブロックの数がなることと, かけ算とを関連付ける。</p> <p>・1人分3個の何人分が12個になるかを考え, $3 \times \square = 12$という式を導く。</p> <p>・1人分4個の何人分が20個になるかを考え, $3 \times \square = 20$という式を導く。</p> <p>・児童の実態に応じ, テープを実際に2cmずつに切って考えさせる。</p> <p>【評】包含除の問題を考える活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・作問活動を通し, 等分除と包含除について再確認させた後, 除法の計算の仕方を考えさせる。</p> <p>・$15 \div 3$の式になる2つの異なる問題を読ませ題意を把握させる。</p> <p>・除数の単位が違いうことに注目させながら, 2つの問題がともに$15 \div 3$になることを確認する。</p> <p>・どちらも, \squareは$15 \div 3$という式で表すことができ, 3の段の九九を使って求めることができることを確認させる。</p> <p>【評】計算の仕方を考える活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・2つの問題の単位や, かけ算にしたときの\squareの位置が異なることについてふれる。</p>

- 「練習問題」に取り組む。
- 5 除法を利用して解く文章問題を作る。[p. 27]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★問題カードをつくりをしよう。
 - に言葉を付け足して問題を完成させる。
 - 身の回りからわり算になる問題を作って、問題カードを作る。
 - できた問題カードを友達同士で発表し合う。
- 6 練習問題に取り組む。[p. 28]
 - 「練習」に取り組む。
- 7 除法と加減法の組み合わせさせた3要素2段階の問題について考える。[p. 29]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★じゅんに考えていこう。
 - 30個のいちごを1皿5個ずつ分け、皿が4枚余ったときの皿の枚数を問題を考える。
 - あさがおの種21粒を1鉢に3粒まき、2鉢をとりにあげた時の鉢の数を求める問題に取り組む。
 - 18人の人が2人ずつ乗り物に乗り、5台余っている時の乗り物の台数を求める問題に取り組む。
- 8 (一の位が0の2位数) ÷ (1位数) と、 $0 \div$ (1位数) の計算の仕方を考える。[p. 30]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★答えが九九にないわり算の答えのもとめ方を考えよう。
 - $40 \div 4$ と $0 \div 4$ の式を書き、答えの求め方を考える。
 - 「練習問題」に取り組む。
 - $60 \div 6$ の式になる等分除と包含除の文章問題に取り組む
- 9 (一の位が0でない2位数) ÷ (1位数) の計算の仕方を考える。[p. 31]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★答えが10をこえるわり算について考えよう。
 - 3個で60円のチョコレートの1個分は何円か求める。
 - 「練習問題」に取り組む。
 - $69 \div 3$ の計算の仕方を考える。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 10 単元を振り返り、練習問題に取り組む。[p. 32・p. 33]
 - 「たしかめよう」に取り組む。
 - 学習の振り返りを書く。

- ・除数の段の九九を唱えて答えを求めさせる。
- ・たくさんの問題を作り、交流することで様々な問題場面に出会わせる。
- ・挿絵の中にある、余った3このお菓子をどのように取り扱うかを考えさせる。
- ・問題の中の2人が何に注目して問題を作っているかを気付かせる。
- ・2種類(等分除・包含除)の問題ができない児童には、問題のどこに注目するとよいか支援を行う。
- 【評】問題カード作りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・できた友達同士でカードを交換して解かせる
- ・個別指導を中心に、定着を図る。
- ・除法の計算問題や文章問題に取り組ませる。
- 【評】除法の問題を式に表したり、答えを求めたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・式は1つにまとめなくてもよいが、式に使われている数の意味を確かめさせることが大切である。
- ・これまでの問題とは違って、問題文の中に3つの数が出てくることに注目させる。
- ・数図ブロックを操作させ、演算の場面は段階ごとに確認させるようにする。
- 【評】順序を考えながら問題を解決する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・児童の実態に応じて、種をまいた鉢の数がいくつになるか考えるように助言する。
- ・ $a \div b + c$, $a \div b - c$ のどちらのパターンか、図をかくて考えさせる。
- ・10円玉の模型を利用し、「わられる数」を分けやすくして答えを導かせる。
- ・色紙がない場合はどのように式を立てたり、計算をしたりすればよいのかを考えさせる。
- ・ $4 \times \square$ の考え方をを使うことで求められることに気付かせる。
- ・10円玉の模型を提示し、児童の取り組みへの支援を行う。
- ・どちらも $60 \div 6$ で表すことができるが、答えの単位が異なることに気付かせる。
- 【評】文章問題の答えの単位を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・10円玉と1円玉の模型を利用して、「わられる数」を分けやすくして答えを導かせる。
- ・九九を使って解くにはどのようにすればよいのかを考えさせる。
- ・10円玉の図を提示し、ガム1個あたり10円玉はいくつになるか確かめる。
- ・分からない児童には10円玉の図を再度利用しわり算の仕方を振り返らせる。
- 【評】(2位数) ÷ (1位数) の問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価をする。
- ・10円玉と1円玉の図を使い、それぞれを3つに分けることで答えが導き出せることを確認する。
- ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。
- ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。
- 【評】問題に取り組む活動を通して「知識・技能」を評価する。
- ・わり算について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

本単元で初めて除法を学習するので、前単元の九九の表など、乗法との関係を考慮しながら、除法の意味について理解させることが大切である。そして、除法には、等分除と包含除があることを具体物や半具体物を用いた活動などを取り入れて理解できるようにしていく必要がある。